

- ✓ 受審校は 2008 年度の認定基準や手引き等を熟読し、それに従う。
- ✓ 自己点検書等の書式フォーマットも 2008 年度版を使用する (JABEE ホームページで入手可能)。
- ✓ 電大 G 科は 2008 年度に「認定継続審査」を受ける。
- ✓ 「認定継続審査」では、審査項目は全て (新規審査と同じ)。
- ✓ 重要視する点は、通算 5 年間の認定に係る過去の審査で指摘のあった事項について、特に注意を払って行われる (認定・審査の手順と方法 2008 年度版 p.10 参照)。
- ✓ 自己点検書 (本文・裏付資料編) はできるだけ薄く、且つ内容を充実したものに。裏付資料編や実地資料についても、審査員の見易さ等を十分配慮したものに。
- ✓ 自己点検書の作成にあたっては、基本的にはその手引きに従う。ただし、自己点検結果の纏め方に際しては、土木学会が推奨する書式で纏めると良い (研修会テキスト p.37 参照)。
- ✓ 質疑応答は JABEE 制度そのものに対する質問が多くなされ、実務/作業的な質問項目は少なかった。

☆質疑応答 (実務/作業的なものに限って)

Q: 授業評価のウェイトの低い小テストでも収集するのか?

A: 合格最低クラスの分は裏付資料として収集する。

Q: 「過去〇年分」と明示されていない資料 (例えば、議事録やアンケート結果等) は、何年分を自己点検書や実地資料として用意すればよいのか?

A: JABEE としては〇年と明言しない (できない)。どのような根拠資料をどの程度準備するかは、受審校側の判断によるので、明確な根拠と説明ができるのであれば何年分でも良い。内容と質にもよるのでケースバイケースかと思われる (自己点検書作成の手引き 2008 年度適用 p.4 参照)。

Q: (過年度に「認定継続審査」を受審した大学に対して) 自己点検書で工夫をした点は?

A: 前回の自己点検書を更新するだけでよいかと思っていたが、大間違いだった。前回からの改善点については力を入れて書いた。また、学習目標と科目の対応の整合性を確実にはかった (研修会テキスト pp.79-84)

Q: 過去に「新規審査」と「中間審査」を受けている。今回「認定継続審査」を受けるが、“前回受審時からの改善・変更”についてはどの時点からを記述するのか?

A: その場合、“前回受審”は「中間審査」時を指す。ただし、認定・審査の手順と方法 2008 年度版 p.10 にあるように、新規→中間→継続における改善点とそのプロセスは重要視されるので、結局は新規審査から全てを記述する必要がある。

A: 過去の審査時に指摘されなかった事項も、今回の審査で悪く評価されることも無いとは言えない。